

ポスドク報告書

苅田 裕也

2023年6月

ドイツの Max-Planck Institute for Evolutionary Biology にてポスドクをしています、2016 年度奨学生の苅田裕也です。ポスドク報告書の第一回を提出いたします。

1 ポスドク先探し

ポスドク先を探すにあたり私が重視したのは、自分独自の研究の方向性を開拓することです。博士課程で研究者としての土台はできました (と信じています) が、あくまでボスの傘下の研究であり、独立した研究者としては青二才です。ポスドクで研究の幅を広げ、自分独自の強みを作っていくことが重要だと考えました。具体的には、

- 博士の研究を活かせる程度に近い分野である (研究を深める) が、今までと違う手法や角度を学べる (研究の幅を広げる)。
- 自由に研究テーマを模索できる。つまり、ボスの理解があり研究費に余裕がある。
- (あたりまえですが) 自分の研究の大まかな興味・嗜好と合致している。

という三点です。加えて、個人的に海外でもう少し経験を積みたかったのと、アメリカ以外のアカデミア (特に非英語圏) に興味を持っていたので、ヨーロッパ > アメリカ > 他地域 の優先順位で探すことにしました。

これらの条件の下で、関連する分野の論文や発表を広く調べ、10 つ弱の研究室をリストアップしました。各研究室の直近の研究を深めにリサーチし、一番興味を持った教授に直接メールを送りました。ひとつめのラボとスムーズに話が進んだため、結果的にコンタクトをとった教授はひとりでした。

2 ドイツ生活のセットアップ

ドイツや EU 圏には多くの日本人研究者・留学生がいますが、生活のセットアップに関する情報はそれほど多くないように感じます。Web では HowToGermany などの英語の情報もありますが、手続きが出身国ごとに微妙に異なる場合があるので注意が必要です。第一回の報告書として、生活をセットアップするにあたっての情報をまとめたいと思います。領事館やデュッセルドルフの

日本人コミュニティのホームページからも情報が得られますので、参考にしてみてください。

ビザ・滞在許可

日本人はビザなしでドイツに数カ月滞在できるため、事前にビザを取得する必要はなく、現地に到着してからビザと滞在許可を申請できます。ただ、現地での手続きはドイツ語ができないと少し難しい(英語でも可能だが遅れや手違いが起こりやすい)ので、日本でのビザ取得がおすすめです。家族を同伴する場合は戸籍謄本の認証翻訳とアポストイーユが必要なため、早めに準備をはじめましょう。ビザ取得済みであっても、渡航後に現地での住民登録や外国人局の手続きが必要になります。滞在許可(ビザとは別物)の申請も現地についてから行います。

家探し

アパートの情報は ebay, imowelt といったホームページで見つかりますが、良い物件は 2-3 カ月前からしか掲載されず内見(と大家さんとの面談)がほぼ必須です。残念ながら、日本から家を確保するのは研究所や大学所有の施設でない限り厳しいです。私は長期旅行者向けのアパート(Ferienwohnung)を予約し、そこに数カ月滞在しながら家探しをしました。現地については、ラボの秘書さんの助けを得ながら物件を見つけました。渡航時期によっては他の学生やポストクが出ていく物件を狙えるかもしれません。

可能であれば、家具付きインターネット付きのアパートを強く勧めます。というのも、ドイツのアパートの多くはキッチンや洗面台まで自分で設置する必要があり、インターネットも複年契約だったり工事を伴ったりするケースが多く面倒だからです。

保険・病院

保険なしではビザが発行されないため、最優先で加入する必要があります。郵送での手続きが含まれる場合もあるので、早めに行動しましょう。現地雇用でない場合(日本の海外学振など)はドイツの保険に加入できないため注意が必要です。はじめの数カ月だけ現地で雇用してもらうことでドイツの保険に加入する裏技があるらしいですが、真偽は不明です。ドイツはかかりつけ医の制度なので、現地についたら家に近いかかりつけ医を探し、受け入れの可否を尋ねます。

携帯電話

電話番号は手続きに何かと必要になるので早めに SIM カードを手に入れましょう。小回りがきくプリペイドがおすすめです。2023 年現在、Telekom の MagentaMobil プリペイド SIM で十分満足しています。SIM の購入には現地の住所が必要で、SIM の有効化には対人の手続きが必要です。携帯ショップで購入とアクティベーションを同時に済ませてしまうのが楽です。

銀行

ドイツの銀行は口座維持費がかかることに注意です。維持費が安いオンラインバンクもありますが、個人的には窓口で英語で相談できる大手銀行を勧めます。デビットカード (EC-Karte/Girocard) やクレジットカードがあると日々の支払いが圧倒的に楽になります。

自動車

ドイツのアウトバーンでは 140 km/h くらいのスピードで基本車線が流れる場合もあるので、パワーがある車の方が安心です。追い越し車線では 170 km/h 超で爆走する車も度々見かけます。

免許 渡航して 6 カ月以内であれば試験なしで日本の免許を書き換えることができます。書き換え時の視力試験は免除されますが、国別の対応を把握していない窓口の人もいるので注意しましょう。

購入 ディーラーや個人が中古車情報を掲載するポータルサイトが複数あります。ただ、英語が通じるとは限らないので、大手ディーラーや正規店で購入するのも選択肢です。私は正規店で中古車を購入しました。比較的値段は高いですが、保証が充実していますし、保険や登録の手続きを英語で助けてくれます。

保険 以前加入していた保険会社からの無事故証明があると保険料が安くなります。運転センターの無事故証明は考慮されません。Axa などの大手会社へ直接申し込む手もありますが、日本語・英語で保険を斡旋してくれるブローカー会社もあります。

子育て

ドイツの子育て支援は非常に手厚いです。子供の保険料は無料ですし、月に 250 ユーロの補助金に加え、保育園 (Kita) も半額程度が支援されます。アメリカでの子育てからすると信じられないくらい安く子育てができます。年齢で扱いが変わるため、3 歳を境に転園するのが一般的です。多くのデイケアではドイツ語が基本言語ですが、ドイツ語が不自由な場合は補習で語学をサポートしてもらえます。保育園の枠はすぐに埋まってしまうので、早めに行動する必要があります。私は渡独半年前から研究所の託児所に連絡をとり枠を確保してもらいました。

3 さいごに

Max-Planck Institute の研究環境は非常に恵まれており、ストレス無く研究に集中できています。次回以降の報告書では、研究やドイツ生活の内容についてお話したいと思います。船井財団のみなさまからのあたたかいご支援に感謝しております。